

1人1台タブレット端末を活用し、 自己調整しながら制作を進める学習

第3学年

ふるさとPRポスター

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 制作の過程で作品を撮影して記録に残すことで、生徒自身が作品の変容を自覚し、自己調整しながら制作を進めることができました。

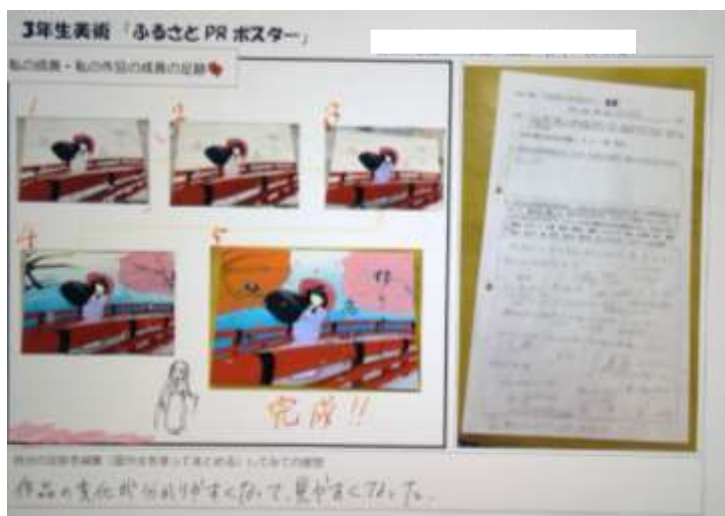
学習支援ツールを活用したデータ管理による効果

制作途中の作品を撮影して、振り返りに活用することで、自分の作品の変容を自覚させ、次の時間の制作につなげていく。

題材の最後に鑑賞プリントを撮影し、一枚の「足跡」にまとめることで、題材を通しての学びを残す。

- ・撮影機能を使って、制作途中の作品を単位時間の最後や撮りたいタイミングで撮影する。
- ・前時の作品と比較して、変容を確かめ、本時の学びを確かなものにしたり、次時工夫したいことを明確にしたりする。
- ・鑑賞プリントを撮影し、「作品の足跡」として残す。

*本実践では、MetaMoji Classroomを使用した。



教師の指導のポイント

- 授業の最後だけでなく、撮影したいタイミングで撮影することを伝える。
- 「本時制作してどんなところが変わったのか。」「次時はどこをどんなふうに工夫したいのか。」という問いかけをおこなう。
- タッチペン機能を用いて、自由に書き込んでよいことを伝える。

大型モニターで作品を映して、思ったことや感じたことを交流する

終末の振り返りで、撮影した作品を大型モニターに映して、相互鑑賞を行う。

- ・制作者は、主題と本時工夫したところについて話す。
- ・学級の仲間は、作品を鑑賞して、よいところや美しいところを話す。

教師の指導のポイント

- 主題を表現するために、課題で示した造形的な視点を生かして制作できていた生徒を紹介し、工夫したところについて話してもらう。
- 作品を鑑賞して、感じたことや考えたことを交流することで、抽出生徒の気づきが、学級の中に共有できるようにする。